令和５年度　学校教育計画

有田市立宮原小学校

１　教育目標

『心豊かでたくましく、みんなとともに伸びる子どもの育成』

めざす子ども像

	教育目標とのつながり
○ 自分も人も大切にする子	（豊かな心）・・・・・・・・（心豊か）
○ すすんで運動ができる子	（健やかな体）・・・・・・・（たくましく）
○ 自律学習ができる子	（確かな学力）・・・・・・・（みんなとともに伸びる）
○ 地域に誇りと愛着がもてる子	（豊かな心）・・・・・・・・・・（心豊か）

２　本年度の努力点

（１）学力向上

Ⅰ．授業の充実

① 教材研究を通して、ねらい（指導事項）を正しくおさえ、子ども達全員が目標や評価の基準に到達できるよう単元や１時間の授業を計画する。

② めあて・課題の提示、自分の考えをもたせる、まとめ・振り返りの時間の確保を徹底し、主体的に学習する子供を育てる。

③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「子どもと子どもをつなぐ」を目指した授業展開を工夫する。

④ 個々の学習状況を把握し、習熟に応じた授業展開の工夫や個に応じた指導を行う。

⑤ 協働的な学びと個別最適な学びの実現に向け、１人１台タブレット端末を効果的に活用する。

⑥ 学力調査結果等を全教職員で共通理解し、組織的・継続的に学習状況の改善を行う。

Ⅱ．学習の基盤をつくる活動の充実

① 全ての教科等で活用できる読解力が身につくよう、基礎学習の時間に言葉のきまりを確実に理解させる。

② 朝読書や読書に親しむ活動（読み聞かせ等）を充実し、読書習慣を身につけさせる。

③ 全ての子どもが「わかる」「できる」を実感できるよう、全教職員で補充学習を計画的に実施する。

④ 「家庭学習の手引き」を活用し、自主的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

（2）道徳教育

Ⅰ．教育活動全体を通じた取組

① 学校教育活動全体を通じて、子供の内面に根ざした道徳性を育む指導を行う。

② 特別活動等における多様な実践活動や体験活動（高齢者福祉施設との交流、保育所との交流等）を道徳科の授業に生かせるよう計画的に実施する。

Ⅱ．道徳科の授業の充実

① 児童が道徳的価値（価値理解・人間理解・他者理解）を自分との関わりで捉えられるように自分の考えをもとに書いたり話し合ったりする活動を取り入れる。

② 家庭との共通理解を深め、相互の連携を図るため、道徳科の授業を公開する。

（3）人権教育

Ⅰ．一人一人の人権を大切にする指導

① 子ども一人一人に傾聴する姿勢と、承認・賞賛・励まし等の言葉かけを大切にする。

② 誰にでも失敗や間違いはあるという認識に立って、互いに尊重し合う人間関係づくりを行う。

③ いじめや差別をゆるさない認識や態度を養う。

④ 職員会議で子どもの実態について交流し、全教職員で共通理解を図る。

⑤ 教師自身が最大の教育環境（言葉遣い、服装、挨拶、時間厳守等）であることを常に意識する。

Ⅱ．全校的な教育機会の充実

① 平和学習や人権週間の取組等、人権学習に全校的に取り組むとともに、人権出前授業等、多様な人から人権について学ぶ機会を積極的に活用する。

② 教職員の人権意識を高めるための研修を計画的に実施する。

（4）特別支援教育

Ⅰ．支援体制の整備、充実

① 特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者、医療、福祉等関係機関との連携に努める。

② 個別の指導計画・個別の教育支援計画（つなぎ愛シート）をもとに、切れ目のない支援を行う。

Ⅱ．インクルーシブ教育の推進

① 特別支援教育コーディネーターを中心に情報交流や研修を実施し、特別支援教育についての理解を深める。

② インクルーシブ教育システムの視点に立ち、特別支援学級と通常の学級との交流、共同学習を積極的に行い、多様性を尊重する心を育む。

③ 特別支援教育による多様な子どもへの個別の指導や支援を行えるよう校内支援体制の構築に努める。

（5）生徒指導

Ⅰ．プロアクティブ（常態的・先行的）な生徒指導の実施

① 自己決定と主体的な参加・役割の自覚・責任感を感じられるよう指導を工夫し、自主性・自発性を育む。

② 子ども自身の言葉で課題や問題を捉えさせ内省から行動変容へという過程を重視することで、自己指導力（自ら望ましい大人になろうとする）を高める。

③ いじめ等問題行動を早期に発見できるよう、事例研修を行い、共通理解を図る。

④ 日常の観察、定期的な調査等によりいじめの兆候を見逃さず、迅速に対応する。

⑤ 「しつけ三原則」「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底し、規範意識や集団生活でのルールやきまりを確立する。

Ⅱ．課題等への対応

① 不登校、いじめ等の課題に組織的に取り組むため、報告、連絡、相談を怠らない。

② ＳＣ、不登校支援員等と連携し、子ども理解に努めるとともに、指導記録（指導のカルテ）を残し、今後の指導に活かす。

③ 対応は迅速に、指導は丁寧に課題解決に向けて取り組む。また、保護者へは誠意ある対応を行い、課題解決の過程であっても早急に連絡をとり安心感を与える。

（6）体育・健康教育

Ⅰ．体力向上に関する取組

① 体育科の授業研修や専門家の出前授業により、教員の指導技術及び児童の運動能力の向上を図る。

② 「体力アッププラン」をもとに全教職員で課題改善に向けた取組を徹底する。

③ 体育朝集を計画的に実施し、運動に親しむ態度を養う。

Ⅱ．食育・心身の健康に関する指導の推進

①「食に関する指導の全体計画」をもとに、望ましい食習慣の形成を図る。

② 望ましい生活習慣「早寝・早起き・朝ご飯」の確立に向け、全校朝集や保健だよりで保護者や児童に重要性と励行を呼びかける。

③ アンケートを実施し、実態を数値化し、保護者や子ども達に現状を振り返らせて改善を図る。また、懇談会等で保護者に積極的に働きかける。

（7）安全・防災教育

Ⅰ．安全教育に関する指導の実施

① 安全教育年間計画に沿って、火災・地震・津波を想定した避難訓練や防犯訓練等を行い、防災意識を高める。

② 防災に関する知識をもとに、一人一人が考え、判断し、行動する力を育み、「自分の命は自分で守る」姿勢を身につけさせる。

③ 警察（交通安全教室）や消防と連携した出前授業（心肺蘇生法、AED の取り扱い）等、関係機関と連携した安全教育を積極的に行う。

Ⅱ．安全管理に関すること

① 学校施設や設備の安全点検を学期毎に行い、事故の要因となる危険を発見し、速やかに除去する。

② 学校環境や教室環境を整え、子ども達の安全と心の安定を図る。

（8）キャリア教育

① 特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じて学校教育活動全体で計画的に取り組む。

② 児童会活動や学級活動を通して、子どもの自主的・自発的な活動を重視し、よりよい人間関係を築く力や自治的能力の育成を図る。

③ 社会科や総合的な学習の時間、社会見学等を通して社会の様々な仕事や働く人々に触れる学習の充実を図る。

④ キャリア教育目標の達成に向け、キャリアパスポートを効果的に活用する。

（9）ふるさと・国際理解教育の充実

① 「地域へ、そして地域から」をスローガンに学習の場を学校から地域に広げるとともに、学校と地域との交流教育を積極的に実施し、地域とともにある学校づくりを推進する。

② 宮原郷土伝統芸能保存会の方たちによる篠笛体験など、宮原校区に伝わる伝統や文化を学び、地域への関心や理解を深める。

3　教育計画の裏付けとなる条件

（1）地域や児童の実態

本校校区は有田市の東端に位置し、北に長峰山脈が走り、南に有田川が流れ、自然に恵まれた環境にある。有田みかんの主産地としての宮原ではあるが、農地の宅地化により新興住宅が多く、みかん農業を中心とした農村地域から、今や近郊農業地域の観を呈している。

新興住宅の増加により、古くからの地縁的な紐帯と、新しい生活様式とが混在し、地域や保護者の教育的ニーズも多様化している。

そこで、本校では、「学校とともにある学校～地域へ、そして地域から～ 」という考え方に立ち、地域との連携を重視した教育活動を展開していく。学校教育活動の広報手段の一つとして、学校だより「いい笑顔」、学校運営協議会発行の「コミュニティ・スクールだより」を保護者に配付、地域住民にカラーで回覧している。

児童は全般的に明るく素直である。学習に対しても真面目に取り組む児童が多い。コミュニケーションの窓口となるあいさつや返事についても「しつけ三原則」を重点実践項目に据えることで、向上してきている。また、協同教育を進める中で、児童の関係性がよくなってきている。上級生が下級生に優しく、異学年の関係が大変よい。協同学習の成果としての友達理解も進んでいる。

（2）昨年度の成果の積み上げ

1．協同教育の展開
2．防災教育の実践
3．健康安全教育の充実
4．特別支援教育・人権教育の充実
5．学校運営協議会による学校運営の改善
6．地域との積極的連携

4　学校研究課題

（1）主題

子どもと子どもがつながる授業づくり

自分の考えをもち、表現する算数科の授業

（2）主題設定の理由

これまで4年間、研究主題を「子どもと子どもがつながる授業づくり～子ども一人ひとりが自分の考えを伝え合って～」とし、「協同の原理」の考え方をベースに、目標に向けて、互いに教え合い、助け合いながら全員が理解する授業を目指してきた。その中で、宮原小学校授業キーワード「子どもと子どもをつなぐ」「主体的に学習する」「自分達で授業をつくる」「学習の必然性」「空白禁止」を共通理解し、どの学級も本時のめあてとメニューを提示し、学習の見通しをもたせる指導を一貫して行ってきた。このことにより、子ども達の意見がつながり、考えが深まっていく学びの姿が見られた。

一方で、思考を深めるための課題設定が適切でない、目標に迫るための発問や指示が精選されていない等から、教師の出番が多くなったり、教師と子どものやりとりが中心になってしまったりする授業も見られた。また、子どもの課題の把握が曖昧で、個人で考える活動が不十分であったり、友達に教えてもらえる安心からか、自分でなんとかして考えようとする姿勢が見られなかったりする子どももいた。

これらの課題を改善しながら、引き続き宮原小学校が大切にしてきた「子どもと子どもがつながる授業づくり」を目指し、子どもが主体となって授業に取り組み、子ども同士のつながりの中で考えを深めていく授業を実現していきたいと考えている。

しかし、これまでの宮原小学校の授業スタイルやその考え方については、職員の入れ替わりやコロナ禍により教職員間での共有が難しくなってきている。また、教職員のキャリア段階を見ると、基礎形成期や伸長期前半の教員が半分以上を占めることから、教科の目標を正しく理解し、教科の見方・考え方を働かせて、ねらいに迫る授業を構想・実践する指導力をしっかりとつけていく必要がある。

そこで、本校においてこれまで研究してきた算数科において、宮原小スタイルを継承しつつも、「算数科授業の基本スタイル」をもとに、算数科の教科指導力を高めていきたいと考えている。あわせて、子どもと子どもをつなげるための効果的なICT活用についても研究していきたいと考えている。

（３）研究の進め方

１．授業研究を通した授業力向上

①学校訪問

・全学級公開授業＋研究授業１学級

・研究授業後の研究協議はワークショップ形式で行う。

・研究部はファシリテーターに位置づける。（変更もあり）

②学年部別授業研修

・年度初めに、各学期の授業研修を計画し、計画通り実施していく。

・必要に応じて、随時授業研修を実施する。

（事前配布は授業デザインと学習メニューでもよい。授業記録は不要。）

・授業デザインと単元メニュー、学習メニュー、ワークシート、確認テスト等を綴る。

・授業記録、写真は各学年部で担当を決める。

・研究協議のファシリテーターは研究部が行う。（変更あり）

・研修授業後の研究協議は研究主題に沿って行う。

２．学習の基礎をつくる

①補充学習の改善・継続

・全学年が毎週木曜日の放課後に行う。

・全職員が参加し、みんなで子供達を見取る。

②国語（漢字・読解力）の取組

・市販の漢字５０問まとめテスト、宮小漢字５０問テストを行う。

・「漢字の博士試験」を年３回（６月・１０月・２月）実施する。（希望者のみ）

・読書活動を充実させると同時に文章を正しく読むようにする。

・文章を短くまとめる「要約」を全教科で取り組む。

③家庭学習の徹底

・家庭学習の手引きを配付する。

・児童にはカラー版、家庭訪問で白黒版を配布する。

・よい自学を掲示する。（教室・校内）

・担任が月に１回新しいものを貼りかえ、研究部がチェックをする。

・学期末にふりかえり（児童）を実施し、次の学期及び学年につなげる。

④学力状況調査シェアリング（学力テストの実施が決定すれば計画する）

宮原小学校算数科授業の基本スタイル

☆ **学習の必然性**・・・めあてにつながる考えや気づきから課題を自分事として捉えさせる。

☆ **自分たちで授業をつくる**・・・教師の言葉数少なく。教えるより、子どもに気づかせる。

☆ **空白禁止**・・・何をしたらいいか子どもが分からないという状況を作らない。

授業の流れ	留意点・子供の反応等
１問題提示	**①既習や経験が想起されるような導入を心がける。** ☆子どもの反応：「こんなことよくあるよ」 **②問いの発生につなげる。(「めばえ」→「めあて」へ)** ☆子どもの反応：「ここが前と似ている！でも、ちょっと違う」「この問題解いてみたい！」
２めあての設定	**③めあての提示** ・１時間で何が達成できたらよいのかを子ども自身がイメージできる言葉で提示する。 ・自分だけでなく、学級のみんながめあてを達成することが大事であるという意識をもたせる。 **④学習メニューの提示** ・１時間（または教師主導でない部分だけでも可）の流れを簡単に示す。 ・教師が、「次に～～をしましょう」と言わなくても、子どもが見て、次にすべきことを判断したり、時間を意識して行動できたりするようにさせる。
３自力解決	**⑤解決の見通しを持たせる** ☆子どもの反応：「自分でも解けそうだぞ！」 **⑥　自分の考えを書かせる** ・自分の力で粘り強く考えるようことが大事。
４集団解決 ５まとめ	**⑦　みんなで課題を解決する** ・一斉、ペア、グループ学習等、学習形態を工夫する。 ・上手な説明の仕方をほめ、全体に広げる。 ☆子どもの反応：「〇〇さんの考えもいいな！それで自分も考えてみよう。」 「〇〇さんの説明を聞いたらよくわかった!」 **⑧学習したことを整理する** ・本時のめあて、学習内容との整合性を大切にして整理し、学習したことを共有化する。
６振り返り	**⑨確認テスト、振り返り** ・５分程度でできる問題数で。 ・開始時刻をメニューに提示しておき、子どもが時間を意識して行動できるようにする。 ・自分の学びを、自分の言葉で具体的に振り返る。 ・振り返り観点の例 分かったこと、分かりにくかったこと、本時のポイント、自分で見つけたポイント、友達の意見や関わりで気づいたこと　等